

あのね、保育の根 NO.4

～えんちょうのおたより～ 7月



あっという間に順番が一周して私の番になりました。そしていつの間にか園長だよりの名前が『あのね、保育の根』に変更され、定着している…(笑)。

さてさて、副園長、主幹教諭のおたよりはいかがでしたか？読んでいただいた方々にはおわかりだとは思いますが、2人とも保育に情熱的で、勉強熱心です。私は毎日近くで接しているため、暑苦しいと思う時もあるんですが…(笑)、そんな2人に負けないように、怠け心に鞭を打って努力していきたいと思います。今回は熱い2人からのバトンを受け取り、「秩序のある生活」から私の得意分野、発達の凸凹への理解へとつなげていきたいと思います。今回こそ短くまとめたい…。

＊「秩序のある生活」から発達の凸凹への理解へ

みんなが気持ちよく過ごすために約束事やルールが生まれ、「秩序のある生活」へと繋がっていきます。しかし、ここでこども園でも毎度悩ましい問題が起きます。それは決めたルールを何度も破ってしまう、繰り返し伝えていても約束事を守れない人が出てきてしまうということです。

ルールを何度も破ってしまう理由はおそらく1つだけではなく、色々な要因が複合的に絡み合い、その結果として『守れない』行動へと繋がっているのだと思います。

今回はその1つの要因として、発達の特性に焦点を当ててお伝えしたいと思います。

私は立場上、ルールを破ってしまった人から話を聞くことが多いです。その中で「またダメだとわかってはいるけど守れなかった…」「また止められなかった…」といった、ルールを守りたいと思っていたけど結果として守ることができなかった。という、苦しい心の叫びをよく聞きます。

「わかっているけど守れない」、私はその言葉を聞いた時に、発達の凸凹(でこぼこ)をイメージしたり、時にはその人に伝えたりします。詳しく説明す

るとページが足りないので大きく割愛しますが、これは「障がい」という概念とは少し違います。

誰しもが得意なことで苦手なことがあり、苦手なことは他の人に比べると、改善できるスピードがとても遅いということ。例えば、「秩序のある生活」を理解して、実践したいと思っていても、衝動性の特性が強い人は苦手だったりします。

ルールを守れないことは良くないことです。誰かに迷惑をかけることも良くないことです。それは私も疑う余地はありません。ただ、そのルールがたまたまとても苦手な領域で、改善がとても苦しい人がいたとしたら、その人は『悪い人・ダメな人』でしょうか？

誰しも発達は凸凹しています。だからこそ、そのルールが苦手な領域の人でも守れるような、良い方法を一緒に考えてあげることも必要なのではないかと思います。そのルールを守れる人が苦手な人を手助けしなければ、改善は難しいはずですよ。

私自身も多動や衝動性が強く表れる性格で、じっとしてられません。会議でも自分が話す状況ではなく、急激に眠気が襲ってきてしまい、時には寝てしまいます。芸術的な感性はないに等しく、絵を描く場面や歌を歌う場面から可能な限り逃げます。もし私の時代にダンスの授業が必須科目だったら、私はその授業をサボっていたと思います…(笑)。おとなになった今でも社会に適合できているとは微塵も思えませんが、苦手なことをうまく霞ませながら必死で生きています。

＊苦手なことが受け入れられる社会を夢見て

すべての人に発達の凸凹があることを理解し、一人ひとりそれぞれに苦手があることを受け入れられたならば、「ルールを破る悪い人」や「相手の気持ちが理解できない人」と突き放すのではなく、『苦手な人でも約束事を破らなくて済むような方法』と一緒に考えられるのではないのでしょうか。

突き放された人に待っているのは、社会的な孤独や自己肯定感の低下です。子どもの成長を手助けする立場の人間として、できる限り、おとなも子どもも得意な領域を伸ばし、苦手な領域を霞ませてあげられるような、そんな園長でありたいと思っています。いや～もっと細かく書きたかった…(笑)。